

2018年、北海道は命名150年



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



ill. by KEI / 雷ミク ©CFM piapro



未来へつなぐ、みんなでつなぐ

みなさんが企画、実施する事業が主役です
みんなで北海道150年を盛りあげましょう





2018年は北海道命名150年の記念イヤー

■ 北海道命名について

本道はかつて蝦夷地と呼ばれていましたが、松浦武四郎が、蝦夷地に代わる名称として「北加伊道」を含む6つの候補を、1869(明治2)年7月17日に明治政府へ提案し、同年8月15日、太政官布告によって「北海道」と命名されました。2018年はその命名から150年目の節目を迎えます。

「北海道」の名付け親 松浦武四郎 (1818~1888)

- 蝦夷地の名称について明治政府に対して「北加伊道」という名前を提案した、いわば北海道の名付け親です。
- 明治政府に登用されて、開拓使の長官、次官に次ぐ判官に任じられ、その功績によって従五位に叙せられますが、北海道の開拓政策をめぐる反発し、わずか半年で政府の職を辞するとともに従五位も返上しました。
- 武四郎が残した『天塩日誌』では、アイヌの古老から「カイ」という言葉には、「この地で生まれたもの」という意味がある」と教えられたとの記述があり、「北加伊道」の「加伊」には、この意味が込められているといわれています。
- 蝦夷地調査の際には、アイヌの人々に道案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するために、多くの記録を残しました。



写真提供:松浦武四郎記念館

■ 「北海道150年事業」の考え方

縄文文化やアイヌ文化をはじめとする本道独自の歴史や文化と国内外に誇る豊かな自然環境は、道民の精神的豊かさの源です。本道が「北海道」と命名されてから150年目となる2018(平成30)年を節目と捉え、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体など一体となってマイルストーン(節目の年)として祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を目指して、次の50年に向けた北海道づくりに継承します。

また、道民一人ひとりが、新しい北海道を自分達の力で創っていく気概を持ち、北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、国内外に発信することにより、文化や経済など様々な交流を広げます。

テーマ

- 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す
- 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ
- “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる

■ 北海道150年事業への参加・協力のお願い

寄附・協賛のお願い (~2018年12月)

北海道の歴史的な一幕となる記念事業について、実行委員会への寄附や道のふるさと納税制度を通じ、スポンサー(企業・団体等)やサポーター(個人)として、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。

事業参画のお願い

北海道150年事業のテーマに基づく事業を応募します。実行委員長の定めに沿って「北海道みらい事業」または「記念セレモニー関連企画」として登録します。

北海道みらい事業 (2018年1~12月)

「北海道150年事業基本方針」を踏まえて、様々な主体(道民・企業・団体・市町村等)が実施する事業です。登録募集:2017年4~9月

- 事業例**
- ・松浦武四郎関連事業
 - ・文化・芸術等の発信
 - ・スポーツイベントとの連携事業 など

記念セレモニー (2018年夏頃)

実行委員会は、パートナー(企業・団体等)とともに記念セレモニーや関連プロジェクトを企画・実施します。登録募集:2017年1月~

- 事業例**
- ・記念式典
 - ・アイヌの音楽や舞踊の披露
 - ・フォーラム・シンポジウム など

詳しくは、下記窓口へお問い合わせください。実行委員会では、事業のPR・支援等を行います。